

2022年1月8日（土）上演③

茨城県立日立第一高等学校

「なぜ茨城は魅力度ランキング 最下位なのか？」

第57回関東高等学校演劇研究大会（東京会場）

生徒講評委員会 講評文

生徒講評委員会 担当委員

戸塚 愛実（東京都立北園高等学校1年）

60分間、魅力溢れる役者のパワーと地元愛がこれでもかと詰まった魅力的な作品に、観客が沸いた。会場の至るところで爆笑が起こったことが、この作品の成功を物語っていた。

舞台は、都道府県魅力度ランキングがスクールカーストを決める高校。そこではランキング上位でさらにミスコン連覇の記録を持つ東京一華がクラスを支配していた。下位の生徒を見下す一華に、ランキング47位の転校生茨城多栄子がミスコンで勝つことを宣言する。

ベタなストーリーでありながら、そこに都道府県魅力度ランキングと茨城県の自虐と愛が加わり、見ていてとても楽しめる作品に仕上がっていた。都府県を擬人化するという発想と、リアリティのあるキャラ設定が面白く、魅力的に映った。

母親を亡くし父親と支え合いながら生活する多栄子と、厳しい母親に完璧を強いられる一華。特にこの2人の対比がとてもよかった。正反対の2人がお互いに自分のことを打ち明けるシーンは大変魅力的であった。

他にも多栄子と一緒にミスコンに挑むランキング46位の佐賀佳乃や一華の親友の大阪夏希など、個性的なキャラがたくさんいたが、多栄子と佳乃のミスコン勝利を手伝うヒカルの謎めいた雰囲気が一際目立っていた。多栄子の母親のような描写もありながら、性別は男であり変態な発言をするヒカルをどんな存在と捉えるべきか悩まされた。

また、多栄子がミスコンによってスクールカーストの上位を目指すのではなく、順位付けやカーストに対して戦おうとしている姿にとっても考えさせられた。自分と相手の魅力を比べるのではなく、お互いの個性を尊重することの大切さが伝わってきた。

様々な演出も非常に効果的で、60分間観客の心を驚掴みにしていた。作中で衣装の着替えが何度かあったが、それがとても早かった。衣装もそれぞれの個性や地元の魅力が詰まっていて、見ていて楽しむことができた。また、舞台装置にタイヤをつけて転がしたり、照明で空間を区切っての場転が劇全体の暗転を少なくしていてよかった。すべてにおいてテンポがよく、心地よい劇であった。

緞帳が降りたとき、『なぜ茨城は魅力度ランキング最下位なのか？』と、観ている側が考えさせられる劇だった。みんな違ってみんないいのに。そう思わせてくれる地元愛溢れる作品であった。

茨城県立日立第一高等学校演劇部の皆さん、楽しませてくださり、ありがとうございました。

